



グヌングデパンランゴ国立公園(TNGGP)は、インドネシアにおける生態系保全の歴史上、重要な役割を担っています。

グヌングデパンランゴ国立公園は、1980年に、インドネシアではじめての国立公園のひとつに指定されました。面積は21,975haで、ジャカルタからわずか2時間(100km)の距離ながら、山々は熱帯雨林で覆われています。

TNGGPの森には、ラサマラ(マンサク科: *Altingia excelsa*)の巨木や、食中植物のウツボカヅラの仲間、森林性のランの花や、それだけではなく光るキノコのようにまだ命名されていない植物もあるのです。

ユニークな植物だけでなく、国立公園地域は多くの野生生物の生息域になっており、大型のカブトムシやハチの仲間、シカ、森林性のイヌ、ヒョウ、イタチなどのほ乳類が100種以上、そして250種の鳥類が生息しています。

この地域は、絶滅の危機に瀕しているジャワテナガザル、リーフモンキー、クロサル、ジャワクマタカ、棲息地でもあります。TNGGPでのハイキングで、インドネシアの素晴らしい森林生態を楽しむことができます。

週末や休日は、観光やレクリエーションの場所として、チボダスやチボダス植物園は、観光客で賑わいます。チボダスでは土日や休日には市場が開かれ、お土産や新鮮な野菜や果物を誰でも安価で購入できます。

魅惑的な自然の山々を楽しみ、多忙な日常の疲れを癒し、そして自然や生態系についてまなびながら、国立公園での休日をお過ごしください。

この素晴らしい価値ある自然をまもり、次の世代に引き継いでいきましょう。



パンランゴ山



公園管理事務所



グデ山